

平成 22 年第 12 回県教育委員会議  
教育長報告

1 報告事項

平成 22 年度全国高等学校総合体育大会開催運営について

2 事項の説明

(1) 期 間 平成 22 年 7 月 28 日(水) ～ 8 月 20 日(金)

(2) 開催場所

- ①総合開会式 沖縄県総合運動公園陸上競技場
- ②各競技会場 県内、那覇市他 26 市町村  
県外、鹿児島県霧島市他 6 市町(一部宮崎県を含む)

(3) 開催競技 陸上競技他 29 競技(うち登山競技は鹿児島県霧島山系で開催)

(4) 参加校数、選手数、役員等数、観客延べ数

- ①総合開会式 9,906 人
  - ア運営本部 1,404 人(役員 574 人、補助員 830 人)+ボランティア 237 人
  - イ式典 534 人(吹奏楽 3 校 196 人、合唱 5 校 218 人、アナウンス 8 校 8 人、入場 1 校 112 人)
  - ウ公開演技 1,923 人(マーチング 4 校 220 人、ダンス 4 校 983 人、郷土芸能 2 校 720 人)
  - エ各県選手団 3,043 人(各都道府県役員選手団入場行進者数)
  - オ来場者数 3,002 人(特別招待 218 人、一般招待 734 人、一般観覧者 2,050 人)
- ②全競技 35,792 人
  - ア選手数 27,698 人(男子 15,845 人、女子 11,853 人) 6,215 校(男 3,563 校、女 2,652 校)
  - イ監督・コーチ数 8,094 人
- ③観客延べ数 492,495 人 (過去実績、H16 島根 489,594 人、H21 奈良 694,394 人)

(5) 県外選手数及び宿泊延数

- ①県外選手数等 34,791 人 (選手 26,895 人、監督・コーチ 7,896 人)
- ②宿泊延数 251,288 泊 (過去実績 H19 佐賀 177,775 泊、H21 奈良 157,362 泊)

(6) 競技期間中の日程変更等

- ①日程変更競技名  
ボート競技、ヨット競技、男子ソフトボール
- ②日程変更理由  
台風 4 号の発生に伴い風雨が強まったために、競技日程を 1 日中止とした。
- ③日程変更結果
  - ア ボート競技及びヨット競技  
予定のレース数を減らしたうえで、実施したレースの成績で順位を決定した。
  - イ 男子ソフトボール競技  
1 日競技中止に伴い、準々決勝(8 試合)までの試合を消化し、4 校優勝とした。

(7) 大会開催に伴う患者数(熱中症、その他)

- ①総患者数 775 件 (うち搬送件数 66 件)(過去実績 H19 佐賀 1,538 件、H21 奈良 783 件)
- ②熱中症数 64 件 (うち搬送件数 9 件)総患者数に占める割合 8.3%  
(過去実績、H19 佐賀 181 件、H21 奈良 51 件)
- ③患者への対応状況

各会場には、医師・看護師、養護教諭等が配置されていたため、救護所等で早急な応急措置が取られるとともに、搬送等の判断も素早く行われ、重症・重篤等大事に至るケースは発生しなかった。

(8) 一人一役活動の実践

大会の主役である県内すべての高校生が、広く県民の理解と協力を得ながら、一人一人の熱意と創意を結集し、高校生最大のスポーツの祭典にふさわしい若さと情熱にあふれ「イチャリバ兄弟(リーダー)」の精神で、心温まる大会を目指した。

①大会運営等

ア総合開会式出演・運営補助	約 3,300 人
イ競技種目別大会の競技・運営補助	約 15,400 人
ウ総合案内所等の運営(延べ数)	約 370 人 (5箇所 7校 18日間)

②大会開催前の活動

ア「美ら島沖縄総体 2010」バンミカセ大会(500日前・200日前)の出演・参加  
イ手作り記念品の選考・製作(島ぞうり 40,000 足)  
ウ総合案内所の製作

県内約 52,000 人の高校生が、何らかの形で「美ら島沖縄総体 2010」に関わり、全国からの参加者と様々な出会い・ふれあいをとおして、「交流と共生」の拠点として地域の活性化を促進させるとともに、一人一人の役割をやり遂げた事に対する大きな自信と郷土に対する誇りを持たた大会となった。

生徒の中には、「一人一役活動に参加するまでは、自分が県予選の試合に出場し、試合の事しかわからなかったが、大会を運営するには、多くの方が一つの大会を支えていることがわかり、仕事をやり遂げた充実感と、これまで自分が参加してきた大会運営の方々への感謝の気持ちが湧いた。」などの感想も寄せられた。

(9) 講評

①総合開会式

午前 4 時の態度決定会議における晴天時対応の判断のもと、開会の準備を開始したが、大会序章の開始直前に大雨と強風に見舞われた。

(財)日本気象協会からの詳細な気象情報をもとに、宮内庁担当侍従を含め、運営本部各部署が緊密な調整・連携を図り、時刻の変更が生じたものの、無事全日程を終えることが出来た。

②競技種目別大会

「競技運営及び危機管理基準要項」に基づき、大会本部(県実行委員会事務局)、競技実施本部(会場市町村)、記録センター・プレスセンターの 3 者が常に連携を取り、全競技の開始・終了、中止・中断の判断等をリアルタイムに把握することにより、大きな混乱や情報の錯綜等がなく、円滑に進行することが出来た。

(財)日本気象協会の気象情報提供サービスにより、27 市町村の天気概況や天気予報、気象予報士による 24 時間電話相談体制をとるとともに、大会本部(県実行委員会)でも緊急対応のための 24 時間連携体制を組むなど、安全・安心の競技運営体制を確立した。

熱中症危険度や雷の発生・予測データ等をもとに、競技会場の選手・役員・補助員・観客等への FAX による注意喚起を行い、定期的に場内外へのアナウンスを行うなどの措置を取り、安全・安心な大会運営を行った。

③その他

ア熱中症対策等

熱中症や感染症の予防等については、沖縄県健康危機管理対策委員会と連携を取り、参加者への注意の呼びかけを行うとともに、熱中症予防パンフレットの配布、大会ガイドブック・参加者の手引き等への注意喚起内容を掲載して対応にあたった。

大会期間中の熱中症危険度予測が高レベルの日は、競技会場の選手・役員・補助員・観客等へ向けて定期的に場内外へのアナウンスを行うよう、FAX による注意喚起を行い熱中症予防に努めた。

イ口蹄疫防疫対策

宮崎県で発生した口蹄疫への防疫対策として、沖縄県口蹄疫防疫対策本部といち早く連携し、県外からの参加者に対し、①衣服の洗濯・乾燥、②持ち込み靴(競技用屋内シューズ・スパイク等)の靴底洗浄、③沖縄県が実施している空港等での消毒マットの靴底消毒への積極的な協力、④畜産農家や家畜せり市への接近を避ける等の注意喚起を行い、口蹄疫防疫対策についても早急に対応した。